平成３０年度教育事業　環境教育学習プログラム開発事業

「子ども環境探検隊・三陸ジオ編」

１　趣　旨　　三陸ジオパークとその周辺の豊かな自然のもと、自然体験活動を通じて、自然の雄大さを感じとり、自然の仕組みについて理解を深めるとともに、その保護や活用について考え、地域に根ざした環境教育の推進を図る。

２　主　催　　独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

３　後　援　　宮城県教育委員会・栗原市教育委員会

４　協　力　　宮城県・栗原市・栗駒山麓ジオパーク推進協議会・三陸ジオパーク推進協議会・宮城県志津川自然の家

５　事業の概要

（1）期　日　平成３０年７月１４日（土）～１６日（月・祝）〔２泊３日〕

（2）参加者

①参加対象　宮城・岩手県内の小学校４年生から６年生　２５名程度

②参加状況　参加総数４８名（応募者数　８６名）

６　場　所　　宮城県志津川自然の家　及び　三陸ジオパーク（ジオサイト）
国立花山青少年自然の家　及び　栗駒山麓ジオパーク（ジオサイト）

７　講　師　　三陸ジオパーク気仙沼推進協議会運営委員長　　豊田　康裕 氏
栗原市役所 商工観光部 ジオパーク推進室　専門員　　原田　拓也 氏

８　企画・運営のポイント

昨年度からの継続事業である。「山から海へ」宮城県のジオパークを学びの一環として、「三陸ジオパーク」との連携を図りながら、三陸ジオパークと栗駒山麓ジオパークを巡る探検として企画した。また、志津川自然の家の協力をいただき、海と沢の活動を行うことで、ジオパークでの大地のつながりを学ぶことに加え、水辺の活動にも関心を持たせたいと考えた。

９　日　程

		活　動　内　容
7/14（土）	【導入】	・シーカヤックで志津川湾内を巡り、海から美しい島や砂浜を見学しながら、自然の恵みや自然の成り立ちについて考えます。
7/15（日）	【展開】	・三陸ジオパーク（気仙沼市）の岩井崎周辺で解説を聞きながら、自然の雄大さや震災の影響について考えます。 ・塩づくり体験を行い、自然の恵みについて考えます。 ・栗駒山麓ジオパークの伊豆沼、内沼で解説を聞きながら自然について学びます。 ・岩石の解説を聞きながら、岩石標本をつくります。
7/16(月・祝)	【まとめ】	・沢活動を通して、山と海のつながりを考えながら環境についてまとめます。 ・三陸ジオパークと栗駒山麓ジオパークの見学をもとに、自然のありがたさや自然の驚異についてまとめます。

10　活動の内容について

【７月１４日（土）１日目】「志津川自然の家周辺フィールド」

【７月１５日（日）２日目】「三陸ジオパーク巡り岩井崎周辺」

【７月１６日（月・祝）３日目】「花山自然の家周辺フィールド」

１０．成果と課題

（1）参加者アンケート結果

満足：８８％　やや満足：１０％　やや不満：０％　不　満：２％

参加者４８名に対して行ったアンケートの集計結果は、「満足」の割合が多かった。この事業は総合的にみて非常に好評であったといえる。不満と答えた参加者の記述欄には、「少し楽しかった」と記入があった。

（2）参加者の声

・シーカヤックは初めてだったが、自然の家の方に「海とパドルに聞いてください」と言われ、しっかり体で学べた。
・シーカヤックは、海に出て、自分たちでこぐので冒険のように感じて面白かった。
・三陸ジオ巡りでは、たくさんの化石や岩が見れてよかった。
・塩づくり体験では、いつも使っている塩とは違う塩が作れてよかった。
・岩石標本づくりや沢登りで、石は古ければ古いほど固いことが分かった。
・岩石標本づくりでは、石はどれくらい昔にできたのかや石の種類などが分かった。
・岩石標本づくりでは、三陸ジオの石や沢の石などについて調べられてよかった
・沢は、水がきれいだったし、飛び込みなどもできてよかった。
・ボランティアは、みんな優しくて、楽しいゲームをいっぱいやってくれて元気が出てよかった。
・友達がたくさんできてよかった。また参加してみたい。

（3）成果

・志津川自然の家の協力により、シーカヤック体験を実施することができた。初めて体験する参加者も多く、アンケートの結果から一番人気のあった活動となった
・今回は、栗駒ジオパークの原田専門員に３日間帯同していただいた。志津川・気仙沼、花山の大地のつくりやそこにある石について説明していただき、参加者の学習を深めることができた。
・「三陸ジオパーク」の解説や、「塩づくり」について、講義や体験を通して学ぶことができた。岩井崎の化石や塩づくりについて歴史や背景を理解した上で、自然の恵みにふれたことは、普段体験できない環境学習プログラムとして有意義だった。
・「岩石標本づくり」では、気仙沼と花山で採れる石を使い、実際に手に取り近くで見たり、触れたりすることができるプログラムを取り入れた。三陸の大地と栗駒山がそびえる栗原の大地の地形や岩石、気候など様々な違いによってできた石や大地の成り立ちについて学習できた。
・学生ボランティアを班付きカウンセラーにすることによって、ボランティアが主体的に子どもたちの支援に関わることが出来た。
・小学校４年生から６年生までの２５名を募集したが、応募多数で４８名を選考して実施した。特に４年生と６年生からの応募が多く、宮城県内の各地域から満遍なく参加を募る事ができた。

（4）課題

・移動距離が長く、二日目の移動に時間がかかるため、仕方がないのだが、活動時間に限りが出てくる。
・今回の「海」の学びを、秋の「山」の学びにどのようにつなげていくか課題である。

担当：企画指導専門職　安達　章美